



鈴木 賢一

名古屋市立大学名誉教授・特任教授

多様な居場所と心地よい家具

現在私たちが生活する都市には、生活を支える多数の公共施設があります。それぞれの施設は用途別につくられ、社会生活に必要なサービスを機能的に分担しています。例えば本を読み資料を調べる図書館、市民サービスの窓口のある庁舎、教育を受けるための学校、病気になったときに診療を受ける病院などです。

さて、人々の社会生活や相互のつながりは、情報技術の発達により複雑で多様化し始めています。移動が容易になり地域や国を超えた交流の条件も整ってきました。様々な背景をもった人々が都市生活で孤立することのない包摂的な社会に向かって、人々の混ざり合った関係を抱擁する環境が求められています。都市において多様な人々を受け入れる公共施設は、これまでのように画一的で孤立したものではなく、融合的で社会に開かれるようになります。

市庁舎のロビーで受験勉強をする高校生や、駅のコンコースでテレワークをするワーカーを見かけるのも不思議ではありません。静粛さの求められる図書館に飲食可能なグループ活動のスペースが設置され、市庁舎の議場が一般市民に開放され、学校に地域住民が常駐できるスペースが用意されるなど、これまでとは異なる新しい活動の風景が生まれています。とりわけ創造的な仕事に取り組むオフィスでは多様な場所の重要性に気づき選択可能な居場所づくりに取り組んでいます。そこにはそれを支える建築やスペースもさることながら、多様な人々の活動を支える心地よい家具が用意されています。

予測困難な社会変化の中にあって多くの人々が気持ちよく質の高い社会生活を保つには、単一機能に対応する建築やスペースのありようから、いつでもどこでも選択的に過ごすことのできる多様な居場所が必要となっています。一人で長時間心地よく過ごせる、二人でお茶を飲みながら楽しく会話ができる、特定のテーマに興味関心のある人たちが集まって学ぶ機会をもつことができるなど、多様な人々が選択しながら過ごし活動できる場所の有無が生活の質を左右します。

健康デザインをコンセプトにしたナゼロの家具は、優しく体を包み、気持ちよく過ごせ、社会的なつながりの調整を可能にしており、人々の日々のウェルビーイング向上にごく自然に寄与しています。都市のあちこちで、生活に密着した素敵な家具に出会いたいものです。